

もしものことに備えて

10 熊本県で起きやすい自然災害と熊本県の活断層の位置を知っていますか？

熊本県は、比較的、風水害を受けやすい土地である。

- (1) 九州山地に東シナ海からの温かい湿った空気が当たり、それによって上昇気流が発生することで局地的な大雨をもたらし、熊本県内を流れる白川、緑川、球磨川に流れ込み河川の氾濫が起きる。
- (2) 熊本県は台風の通り道になることが多く、暴風・大雨による被害を、また、沿岸地域では、高潮による被害も受けやすい。

熊本市内は白川によって、昭和 28 年(1953 年)に梅雨前線による集中豪雨が襲い堤防が決壊する洪水が発生した。また、昭和 55 年(1980 年)と平成 2 年(1990 年)にも白川からの越水により氾濫被害を受けた。最近では、平成 19 年(2007 年)に床上浸水 7 戸を出す集中豪雨に見舞われた。平成 24 年(2012 年)の九州北部豪雨では、これまでに経験したことのないような大雨が降り、県内各所で河川の氾濫や土砂災害が発生し、死者・行方不明者 25 名、住家被害 3406 棟(全壊 169 棟、半壊 1293 棟、床上浸水 544 棟)という被害を受けた。

熊本県の東部には、「阿蘇山(阿蘇五岳)」があり、過去に昭和 7 年(1932 年)、昭和 28 年(1953 年)、昭和 33 年(1958 年)、昭和 54 年(1979 年)に噴火などを起こしている。

熊本県の中央部には、立田山断層、布田川・日奈久(ふたがわ・ひなぐ)断層があるが、平成 28 年(2016 年)には、大地震が発生し、大きな被害が生じた。

また、熊本県では、南海トラフ沿いの巨大地震のなかで、四国沖から紀伊半島沖が震源域となった場合、地震の揺れなどによる被害を受ける可能性もある(地震調査研究本部)。

熊本県は、比較的、風水害を受けやすい。また熊本県中央部に立田山断層と布田川・日奈久断層があるが、平成 28 年(2016 年)には、大地震が発生し、大きな被害が生じた。